

ササニシキBL導入に関する事前評価

庄 司 悦 子・井 上 眞 弘

(宮城県農業センター)

The Economic Survey on SasanisikiBL Having Rice Blast Resistance

Etsuko SHOJI and Masahiro INOUE

(Miyagi Prefectural Agricultural Research Center)

1 は じ め に

近年、安全な農産物に対する消費者ニーズが高まっている。宮城県内においても農家が直接消費者に有機栽培米を販売するという事例が増えている。

そこで、水稻に甚大な被害を及ぼす「イネいもち病」に抵抗性を示し、かつ品種特性がササニシキと同等である「ササニシキIL系統」品種（平成6年宮城県古川農業試験場で育種）、品種名ササニシキBL（以下ササニシキBLと記す）を有機栽培米を生産している農家が、作付品種として導入した場合の経済効果を検討した。

2 調 査 方 法

生協と提携して、「特別表示米（農協が、決められた一定の栽培方法で生産された省農薬米を生協等と相対取引するもの。）」を提供している県内A市の生産農家96戸を対象にアンケート調査を実施した。回収率は91%（87戸）であり、さらに、その中から生産規模の大きい2戸の農家に対して「特別表示米」の生産費調査を実施した。

また、県内で「特別栽培米（食糧管理法で特別に認められた、いわゆる『農薬などを使わないなどの、一般の栽培方法とは異なった方法で生産された米』で、農家が直接消費者と契約販売するもの。）」に取り組んでいる40戸の農家を対象にアンケート調査を実施し、回収率は60%（24経営体）であった。

3 調査結果及び考察

(1) 特別表示米に取り組むA市の調査結果

A市は、水稻の病害虫防除薬剤の空中散布を中止し、地上防除に切り換えるなど、行政と一体となって、環境保護

や食料の安全性の確保などが積極的に推進されている地域である。同時に消費者団体のニーズに応え、特別表示米の生産に積極的に取り組み、特に生協との間では、農協が事務局となった有機米安全提携米協議会を設置し、その中で栽培団地設定基準や栽培条件、団地化など厳しい取り決めをし、生協と農家との間の橋渡しをしている。

この結果、平成7年度で32団地、801haに特別表示米の生産が拡大し（図1）、A市全体の24%にまで及び、それとともなって集落活動の活性化、土壌改良剤の使用や病害虫の共同防除など活発な行動が繰り広げられるようになってきている。

このような地域に対し、ササニシキBLの導入意向を調査したところ、対象農家87戸中81戸（93%）がササニシキBLの導入を希望していることが明らかになった。また、特別表示米（ササニシキ）の生産費調査では（表1）、県平均と比較して農薬費は少ないものの肥料費と労働費が高くなり費用合計は県平均を上回った。しかし、特別表示米に対する生協からの加算金を差し引くと県平均より10a当

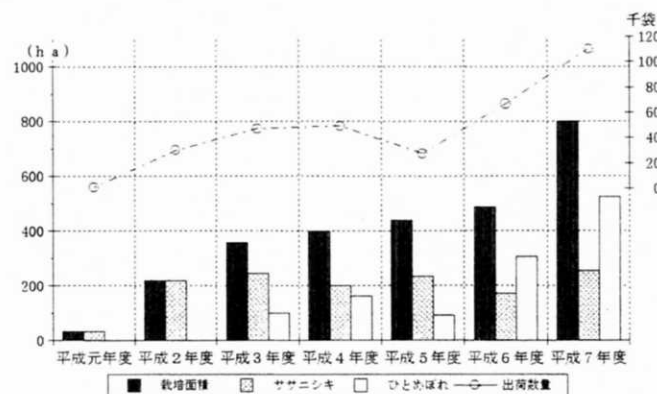


図1 A市における特別表示米の栽培面積及び出荷数量

表1 特別表示米の生産費とササニシキBLを導入した場合の10a 当たり収入増加額

	物材費			労働費	費用合計 (A)	生協からの加算金 (B)	(A - B)
		肥料費	農薬費				
A市生産農家	72,465	9,185	5,851	50,370	122,835	16,100	106,735
ササニシキBLを導入した場合	70,285	9,185	3,671	49,864	120,149	16,100	104,049
県平均	69,409	7,389	7,917	46,820	116,229	0	116,229

注. 1) 「A市生産農家」は調査対象農家の平均である。「県平均」は「H4宮城県農林水産統計年報」より。

2) ササニシキBLを導入した場合の農薬費・労働費の計算は次のとおりである。

農薬費=5,851円-2,180円（オリゼメート粒剤代）

労働費=50,370円-〔0.4時間（いもち剤散布時間）×1,266円（労働単価）〕

3) 10a 当たり加算金=2,000円/60kg（生協からの助成金）×483kg（10a 当たり収量）

たりで約9,500円少なくなった。

続いて、この特別表示米生産農家にササニシキ BL を導入した場合の生産費を試算したところ、農薬費及び労働費が減少するため、さらに10a 当たり2,686円減少する結果になった。

(2) 特別栽培米農家の調査結果

調査農家の平均作付面積（特別栽培米以外も含む）は7.8ha と比較的規模が大きく、1戸当たりの特別栽培米の契約数量は最大で78t である。栽培品種はササニシキとひとめぼれの2品種という農家が多く、その中でもササニシキが多い傾向があった。

特別栽培米の目標収量は、慣行栽培と比較して10a 当たり約50kg減としており、収量の減少を踏まえた導入であった。また、特別栽培米の販売価格（表2）は、調査対象農

表2 特別栽培米生産農家の販売価格（単位：%）

特別栽培米 栽培規模別	500円未満	500円以上 600円未満	600円以上 700円未満	700円以上	総計
1ha未満		13	22		35
1～5ha	4		9	17	30
5～10ha		4	9	4	17
10ha以上				17	17
合計	4	17	39	39	100

注. 1) 価格はkg当たりの価格である。

2) 参考：ササニシキの系統販売価格、338円/kg

家のおよそ4割が一般の系統出荷の約2倍、特に経営規模10ha以上の農家は1kg当たり700円以上で販売していた。

特別栽培米の対象品種としてのササニシキ BL 導入意向

表3 特別栽培米農家の栽培方法別
ササニシキBL導入意向（単位：戸，%）

	無農薬のみ	無農薬・ 有機肥料	減農薬・ 有機肥料	有機肥料 のみ	総計
積極的に導入 (%)	3 19	1 6	11 69	1 6	16 100
導入に消極的 (%)	1 17	3 50	2 33	— 0	6 100
栽培方法別 (%)	4 18	4 18	13 59	1 5	22 100
積極的割合(%)	75	25	85	100	73
消極的割合(%)	25	75	15	0	27

として、「積極的に導入する」が16戸（73%）と多く（表3）、高く評価されていることが明らかになった。これを栽培方法別でみると、「無農薬・有機肥料」の組み合わせで栽培している農家に「導入に消極的」の割合が高かった。

4 ま と め

ササニシキ BL は、「いもち病」に強いという特性から、防除回数の削減による農薬費や労働費が減少すると同時に、特別表示米や特別栽培米としての販売有利性は維持されたままで、これらの生産農家にとっては経済効果が増すことが明らかとなった。

今回調査対象とした特別表示米や特別栽培米生産農家の多くはササニシキ BL の導入に強い関心を示した。しかし、特別栽培米農家の27%は「ササニシキ BL の導入に消極的」と応えており、この調査では明らかにできなかったが消極的な理由についての詳細な検討が必要と思われる。